

MfG_J_Boshin_war_and_person concerned

戊辰の役・西軍と長岡軍と、その後の関係人物の逸話 を改訂

西軍(北陸道軍)の主要メンバは、西園寺公望(20才)を総大将とし、大将として山縣有朋(30)、黒田清隆(28)という構成でしたが、ここに、高橋竹之介、長谷川泰、竹山屯という長善館で学んだ人物が、加わります。

高橋竹之介は、西軍の越後戦線における実質的な参謀です。

長谷川泰は、長岡藩軍医として戦い、会津で継之助の最期を看取ります。

竹山屯は、新政府軍の北越戦線軍医として従軍し、西園寺公望付きの侍医・軍医として常に行動を共にし、公望が京・大阪に戻るまで一年近く帯同し、その後、越後に戻って除隊しました。

これらの人物と関係する人物をを中心に、まとめました。

「著名人は継之助、岩村精一郎のみにあらず」 [C] 春日
 戊辰の役・西軍と長岡軍と、その後の関係人物の逸話

人物	関連する人物	関連する人物・場所	銅像・石碑、その他
山縣有朋		有朋隊の本陣 神田三丁目	(武石弘三郎関連)
西園寺公望			供出銅像 石膏像レリーフ(現存) (京都)
	星野嘉保子	長岡女子教育	供出銅像と 復元ブロンズ像 (草生津)
	堀口久萬一 武石貞松	大河津分水建設	久萬一、貞松の ブロンズ像 (友情の双像) 中之島
高橋竹之介		大學、弘三郎	
長善館	誠意塾	竹山病院 池原康造	大理石像(新大旭町キャンパス) ブロンズ像 (同)
竹山屯 公望の従軍侍医		長岡町の復興 (継之助の志)	竹之介、億二郎追悼会に 哀悼の長句
継之助	三島億二郎 岸宇吉 長男・吉松 (きちまつ)	山本五十六 久萬一ゆかりの日進に乗船で負傷	山本記念館に写真
長谷川泰 長岡藩軍医		東京・済生学舎	供出銅像と 新作ブロンズ像 (北越伝承館前に峰村氏作) 大村智さん ブロンズ像 (小島谷駅前) ブロンズ像 (弥彦公園)
	久須美秀三郎 久須美東馬		
	山口権三郎 実業拡大	長岡実業学校創立	石油産業支える 機械工業への拡大
	山田又七 工学教育	オイルシティ長岡 長岡高等工業誘致 ポスト・オイルシティ	供出銅像 令終会の碑
	山口権三郎の弟の野本恭八郎 互尊文庫		

なぜ中越で石油が産出、その原因は

<p>・山縣有朋の歌碑（西軍上陸の地(中島)、不動院(見附市)） “あだ守る砦のかがり影ふけて 夏も身にしむ越の山風” 山縣の宿舎は神田三丁目、江戸時代から続く薬種商家の小村屋</p>
<p>・西園寺公望 公望の悠久山の碑の「以成肅雍之徳」と解釈 星野嘉保子 供出銅像 + 復元銅像 越後戦線の従軍侍医 竹山屯の大理石像 新大旭町キャンパス内の武石弘三郎作・大理石像、銅像の位置</p>
<p>・高橋竹之介 越後戦線の参謀代理的役目（辞令は「隠密を命ずる」） 中越地図 高橋竹之介の誠意塾設立の経緯 弟子のうちの二人、堀口久萬一、武石貞松の「友情の双像」 久萬一の巡洋艦争奪の外交交渉 日本艦隊、日進の配置と、五十六乗船、海戦で重傷 武石貞松の地元への功績 高橋竹之介は明治30年、政府有力者の山県有朋、松方正義の両者に あて「北陸治水策」と題した建白書を提出、建設の必要性を訴えた。</p>
<p>・長谷川泰 長岡藩軍医として、最期まで継之助のそば 長谷川泰供出銅像 新作の銅像(峰村哲也さん作)と、建設賛同者名簿に大村智さんの名</p>
<p>・長岡の復興、三島億二郎と岸宇吉、久須美父子 三島億二郎銅像（元井達夫さん作） 竹之介、億二郎追悼会に 哀悼の長句 宇吉の長男・吉松と五十六が並んでいる写真 日本艦隊、日進の配置 久須美秀三郎、久須美東馬のブロンズ像 住雲園、弥彦公園 和島と言えば良寛 ～越後屈指の漢学塾長善館・創始者の文臺を見出した 新潟市西大二畑に峰村さん作の「良寛さん、あそぼ」のブロンズ像</p>
<p>・長善館の卒業生 高橋竹之介、竹山屯、長谷川泰、・・・、長岡からも大勢入学 ～ 江戸期、長善館の栗生津は、今井家の燕と同じく、長岡藩(巻組)</p>
<p>・オイルシティ長岡を創った二人、山口権三郎と山田又七 山口権三郎の歌詞 機械工業への拡大への想い 日本石油付属鉄工所、のちの新潟鐵工所の石油産業拡大産業製品開発 山田又七供出銅像と工学教育への想い 長岡高等工業の航空写真 オイルシティの遠因 フォッサマグナと東西圧縮 信濃川の河道変遷</p>

高橋竹之介、誠意塾と長谷川泰



上の写真は湯島天神の境内に置かれた長谷川泰像の台座です。



右は、大正5年、東京湯島天神に建立された長谷川泰の銅像
(大正5年[1916] 武石弘三郎制作)

東京で医学と歴史の研究をされる
堀江幸司先生のウェブサイトより
<http://homepage3.nifty.com/sisoken/edotokyoM.html>

写真は湯島天神の境内に置かれた長谷川泰像の台座です。
以前も記事にしたように、銅像自体は太平洋戦争に際して徴集を受けてしまい、主を失った巨大な台座のみが数十年の間残されていました。
写真は1983年に撮影されていますが、その後間もなくこの台座も境内の改装に合わせて撤去されています。

台座は廃棄物として東京湾へ沈められてしまいました。

長谷川 泰(はせがわ たい/やすし、天保13年(1842年)6月 - 明治45年(1912年)3月11日)は、幕末期の越後長岡藩軍医、「済生学舎」(日本医科大学の前身)創立者、内務省衛生局長、衆議院議員。従三位勲三等。
幼名は多一、字は子寧、通称は復庵。号に蘇山・蘇門道人・柳塘・八十八峰外史・信水漁夫など。

衆議院議員としては、1891年から1892年にかけて「関西にも大学を造るべし。東京大学一校のみでは競風が失われる。」と予算委員会で提言し、政府は3年後その準備に着手し、1897年に京都帝国大学が設立される。開会式で総長の木下広次は長谷川泰の功績を讃え、2年後の医学部開設に当って猪子止戈之助病院長は予算不足を長谷川泰に訴え、長谷川泰は文部省に掛け合い、聖護院近くの2万坪を買収させ、医学部および付属病院を造らせている。

また、1893年には北里柴三郎のために大日本私立衛生会付属伝染病研究所設立の演説を度々行って実現させたり、下水道法制定(1900年)などに尽力した。

(長岡)

長谷川泰は、天保13年(1842)現長岡市福井町に産まれました。

明治時代の東京に「済生学舎」という医学校を創立。済生学舎からは野口英世や吉岡彌生など、多くの医師や医学者が巣立って行きます。

当時の日本の医師数の過半数を超える西洋医が、済生学舎の出身であり、各地で民衆の健康を守りました。

新組地区に生誕した、明治医師教育の先駆者にして、予防医学の先覚者「長谷川泰」を顕彰する座像。その目線は、福井町の生家跡と、母校「長善館」の方角にあります。



[https://nkyod.org/tp_m/\[むすび隊 長岡\]](https://nkyod.org/tp_m/[むすび隊 長岡]) 新組地区が誇る長谷川泰
長岡市新組地区にある北越戊辰戦争伝承館では、地域の「三偉人」として、桑原久右衛門、貞心尼、長谷川泰が紹介されています。

桑原久右衛門は、江戸初期の新組(福島)の庄屋

信濃川右岸の上組・北組の20数か村の農民が灌漑用水が不足して、毎年ひどい干害を受けるさまを見て育ちました。

正保4年(1647)初代藩主忠成に開削の意見書を提出し、工事を開始。

慶安4年(1651)に通水に成功します。

近世初期の大規模な用水工事として、全国に誇れるものと言えます。

このほか長岡には、栖吉村庄屋佐々木要吉によって嘉永4年(1851)に完成した東大新江や山北用水・左岸用水などがあります。

貞心尼(寛政10年(1798年) - 明治5年2月11日(1872年3月19日))

長岡藩 奉行組士奥村五兵衛の次女・ます として越後国長岡に生まれた。
江戸時代後期の曹洞宗の尼僧。 良寛さんの弟子。

長谷川泰は、地域で顕彰活動が起こったのが2010年と新しく、多くの話題が発信されていました。

2015年には北里大学の大村智博士がノーベル生理学・医学賞を受賞されましたが、実はこの時に新組地区も喜びに沸き返っていました。

長谷川泰翁像の台座には20名ほどの発起者の名前のなかに、「済生学舎と長谷川泰」の著者・唐沢信安さん、長善館史料館の吉田勝館長、河井継之助記念館の稲川明雄館長の名前がありますが、大村智博士の名前も記されています。というのは、銅像建立の寄付金を募る際に、北里大学を取りまとめてくださったのが大村智博士だったためです。

北里大学の創始者である北里柴三郎は、1901年に世界で、初のノーベル生理学・医学賞の候補に上がった人物です。この時は日本からの受賞を逃しますが、北里柴三郎を医学の同志として讃え、大いに助けたのが長谷川泰でした

長岡市在住の彫刻家、峰村哲也さんが制作し、湯島天神にあったのと同じいすに座った長谷川が本を手にした姿。

湯島天神の長谷川は丘の下を見下ろしていたが、故郷では長善館のあった弥彦山の方角を見据える。

峰村哲也の、このほかの代表作のひとつ

新潟・西大畑公園の
「良寛さん遊び」(2011)



「内川と新川・赤川」

担当 春日

(長岡市史・通史前編、長岡歴史事典を参考にしました)

(1) 江戸末期の藩政改革と内川河戸の周辺開削

1855-1856 (安政2-3) 財政改革、機構改革に着手。(安政の改革)

1857 (安政4) 渡里町裏と草生津村を結ぶ掘割り、赤川が完成

長岡船道の財政改善のため、623間の掘割りを開削。

1863 (文久3) 藩主忠恭, 老中に任命され, 12月24日外国事務取扱

1865-1868 継之助による慶応改革 (軍政、家禄、藩学、その他諸改革)

1867 (慶応3) 12月 藩主忠訓上京。朝廷に建白書を提出。

同月、長岡船道・肴屋等の一部品目の株を廃止。

1868 (慶応4) 5月開戦、赤川を使って唯敬寺を兵站基地とする。

(2) 維新後の内川と信濃川水運

1874 (明治7) 新潟の企業家が川汽船会社設立、新潟・長岡間航行開始。

その後、長岡、小千谷の商人も会社設立、信濃川本流の運行活発化、
～1854年の横浜・黒船来航から20年後に信濃川で運行という速さ。

運行時間、1日日は上り11時間、2日日は下り8時間。

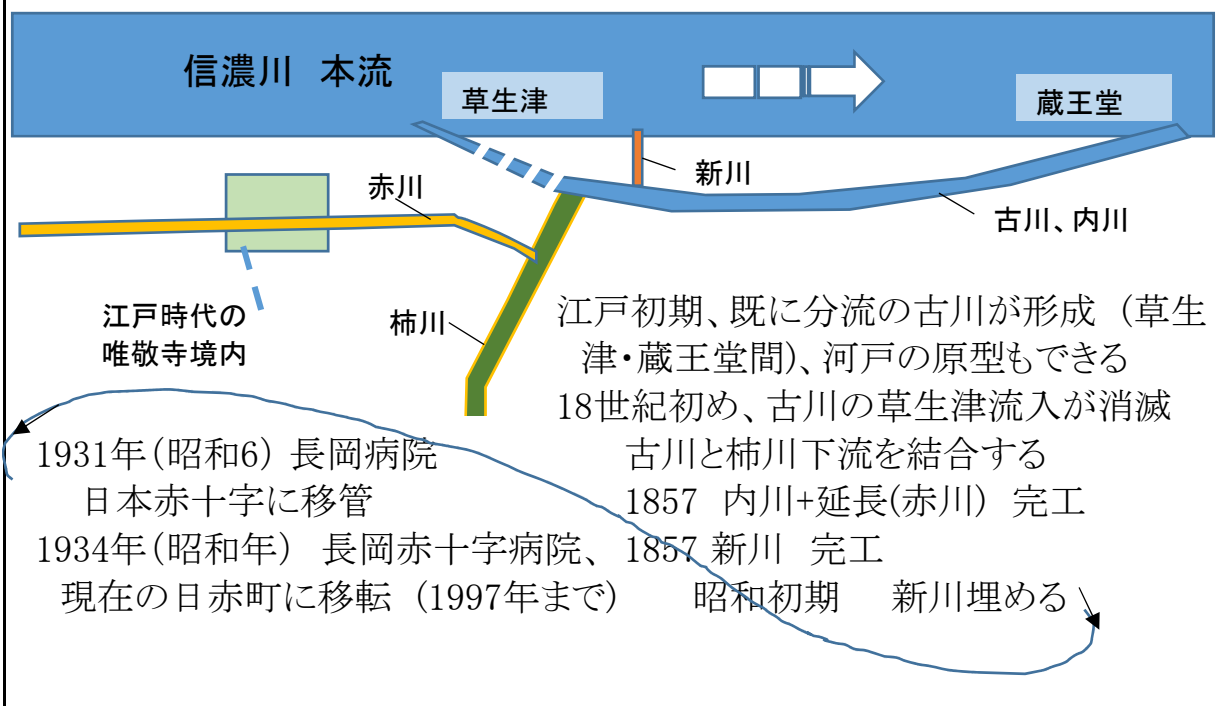
運賃は一番高い新潟一長岡で56銭、今日の米価換算でおよそ3,500円程度。

(H18 新潟市合併記念講演会議事録資料より)

～これまで上り4～5日、下り2日を要した和舟に比べて劇的な変化。

- ・蒸気船の登場で信濃川が水運の主力になり、内川の川岸は、やがて東山、西山から産出する原油の製油所になっていった。
- ・今も赤川は、唯敬寺に隣接の長生保育園の敷地内を流れ、現在の赤川の起点から工業高校まで距離は600m、その先は地下水路。)

(3) 古川、内川、新川、赤川の変遷の簡略図



戊辰の役・西軍と長岡軍と、その後の関係人物、関連の作成資料

(1) 戊辰戦争 ～戊辰の役の著名人は継之助、岩村精一郎のみにあらず

T-6-1_戊辰・東アジア情勢

T-6-2_戊辰の役、長岡戦参戦のメンバー(東軍、西軍)

T-12-1_三島億二郎

T-12-2 高橋竹之介

T-12-3_堀口久萬一と、「友情の双像」武石貞松の教育のリレー

(2) オイルシティ長岡のもとの原油が、なぜ新潟で採掘できたか

T-4-1 日本列島、新潟の大地形成史

T-4-2_新潟の大地形成の恵みと負の遺産

(3) 二人の人物が、パイオニアとして、日本の石油産業創生期を造る

T-5-2_オイルシティ長岡と大正期・長岡大変革 石油

T-5-3_工業都市・長岡の歴史と現在

T-12-6 山口権三郎_山田又七

山口権三郎 日本石油付属鉄工所、のちの新潟鐵工所で関連事業拡大
1907(明治40年)、国内で初のタンカー建造(帆船推進)。

1919(大正8年)、産業用ディーゼルエンジンを国内で初めて開発。

1927(昭和2年)、日本で最初にディーゼル機関車を製造。

山田又七

1896(明治29年)、比礼長岡間に3inch鉄管、国内初のパイプライン建設。

1907(明治40年)前後 明治35-明治43頃が東山油田の産出ピークで、
国内の40%強の原油を採掘。

(4) 工学教育

～石油工業から石油産業支援・機械工業への転換の基盤を造る

・県立工業学校の誘致

1903(明治36年)村松町に創立の新潟県立工業学校が

1911年に長岡、現在の市立南中学校敷地へ移転。

1940年、現在の長岡工業高校の場所に移転。

戦後の学制改革で、長岡工業高校。(県下で最初に設立された工業高校)

T-10-4長岡の実業_工学教育 ～山口権三郎、山田又七が関わる

山口権三郎

1892(明治25年) 新渡戸稲造の協力で長岡阪之上に実業学校設立。

山田又七

長岡高等工業学校の設立を要請しつつけた。

1923(大正12年)に長岡高等工業学校の設立。

戦後の学制改革で新制新潟大学工学部。